

# 青森県

(大鰐町)

## IPM実践指標に基づく化学合成農薬を低減した りんご栽培地域の育成

### 【1. 概要】

- ・りんご栽培において、交信攪乱剤を活用し、化学合成農薬を低減した効果的な防除を実施
- ・これまで約60haで取り組まれてきたが、新たに約23.6haで実践

### 【2. 実践内容】

#### (1) 取り組みの背景、経緯

- ・大鰐町は標高が高く、園地の多くが森林に囲まれているため病害虫の被害が甚大となっている地区であるが、IPMに基づく地域が一体となった防除を実践し、消費者が求める安全・安心なりんごを生産することにした
- ・交信攪乱剤を使用し(図1)、化学合成殺虫剤の使用量を低減し、入手した生産情報・病害虫予察情報に基づいて病害虫防除・薬剤散布を実施。・薬剤散布に当たって、残液がでないように薬液量を調整した

#### (2) 普及拡大に向けたポイント、成功要因

- ・IPM実践指標を活用するに当たって、年2回にわたり研修会を開催、県職員が実践指標の使い方や管理ポイントについて説明した(図2)

### 【3. IPMの推進による効果、得られた経験】

- ・交信攪乱剤を核とする、IPM技術に取り組む生産者が新たに20戸(約23.6ha)増加し、現在は全体の栽培面積の約6%が交信攪乱剤を用いた防除に取り組んでいる
- ・今後も継続して交信攪乱剤を使用し、ほ場の状況をよく観察することで、使用する化学合成農薬をさらに低減する



図1. 交信攪乱剤



図2. 研修会の様子

【問い合わせ先】  
農林水産部食の安全・安心推進課  
電話：017-734-9353